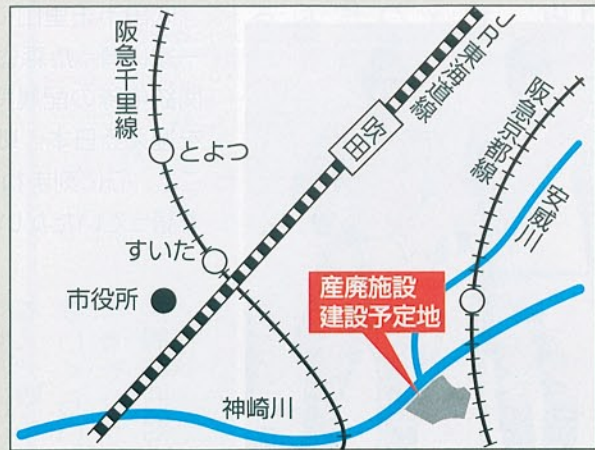




現場は高いトタン板で囲われ、内部を覗くことはできない



ん」という対応。吹田市の判断に「丸投げ」したような対応には首をかしげる。地元のみなさんが言うように、ここは「大阪府の独自判断」を求めたいところだ。

吹田市選出の4人の府議会議員が、足並みをそろえて住民の声を聞く姿勢を保っているのも心強いニュースだ。

「産廃は止めます」と市長はいったのに……

地元住民は吹田市が下ろした建設許可に対して、「不服審査

大阪府は住民の声を聞き、営業許可を止めるべきでは？

高いトタン板に囲われた工事現場。着々と組みあがっていく廃プラ処理施設を見上げながら、今日も地元住民は不安な日々を過ごしている。

「廃プラスチックを燃やさず、シュレッダーで裁断するだけ。健康被害は出ない」と業者は主張する。しかし寝屋川市のような健康被害が出れば、誰が責任を取るのか？

同じ大阪府下の寝屋川市で、廃プラ施設による健康被害が深刻化している。付近住民から「目がちかちかする」「のどが痛い」「せんとくになった」「湿疹が出た」などの被害が急増しているのだ。専門家の疫学調査によると、廃プラ施設の近くに住民が住むと、健康被害が大きかったという。

寝屋川市の廃プラ施設では……

「大阪府はもっと『吹田市さんが建設許可を下ろせば、府も営業許可を下ろさざるを得ませうか、こっぴどく。つまり現在の最大の争点は、大阪府が営業許可を下ろすかどうか、こっぴどく。」

「大阪府はもっと『吹田市さんが建設許可を下ろせば、府も営業許可を下ろさざるを得ませうか、こっぴどく。」

請求」を行った。しかし住民が明らかに思っているように提出した「不服審査」も、今年の3月、吹田市建築審査会が棄却。建築審査会の7人の委員は、吹田市が任命している。つまり「親（吹田市長）の決定に予備（委員）が逆らうことは、まず考えられない」のだ。

住民たちは棄却を不服として、国土交通省にあてて、「再審査請求」を行った。「産廃を止めるた

すでに工事が始まっている



住宅密集地^なに産廃施設が 不安な住民^なに 着々進む操業準備

吹田市東御旅町に建設が予定されている産業廃棄物処理施設。住民が根強い反対運動を繰り広げているにもかかわらず、吹田市長が「建設許可」を与えてしまったために、吹田市始まって以来の産廃施設が建設され、操業を開始しようとしている。住宅密集地に産廃施設？ 本当にこんなことを許しているの？ 建築現場からレポートする。

営業許可に「府の独自判断」を

産廃事業を進めるのは、大阪都市開発（株）。一般ゴミ収集業者である村尾興業（株）の駐車場を利用して、産廃を集め、選別し、廃プラスチックをシュレッダーにかけて処理する計画だ。

問題の村尾興業駐車場は今やトタンに囲われ、3階建てくらいの建屋が、鉄骨で骨組みみされている。思ったより大きな施設だ。この建物が「廃プラスチック処理施設」となり、大阪府から「営業許可」が下りれば、操業開始となる。

「大阪府はもっと『吹田市さんが建設許可を下ろせば、府も営業許可を下ろさざるを得ませうか、こっぴどく。」